

## 審査の結果の要旨

氏名 三浦 智子

学校を保護者や地域住民に対して「開く」ことが教員の教育活動にどのような影響を与えており、ひいては児童・生徒の学習に対していかなる効果があるのかという問いは、教育行政学及び教育経営学にとって重要な研究課題である。ただし、自主的・自律的な学校経営が推進されているとはいえ、学校の経営と教育活動が教育委員会による教育資源配分の影響を受けていることには変わらない。本研究では、教育委員会と学校を「教育経営組織」として包括的に捉える立場から教育委員会による影響を専門職としての教員に対する内在的・制度的統制と位置付け、外在的・非制度的統制（保護者等による学校参加）、内在的・非制度的統制（教員間の協働）、それぞれの機能と相互関係に注目して、学校のアカウンタビリティと成果に影響を及ぼし得る要因を検証している。

本論文は、序章、本論 7 章、終章から構成されている。序章で研究の目的と背景を簡潔に述べたうえで、第 1 章では保護者等による学校参加を進めてきた政策の動向、及び先行研究を検討して、本研究が取り組む課題とその意義を明確化している。続く第 2 章では、先行研究において学校の成果を規定する鍵的要因の一つにあげられている教員間の協働に注目し、行政学から行政統制（責任）論を援用して、これを内在的・非制度的統制として位置づけたうえで、保護者等による学校参加、教育委員会による指導・助言や人事・予算措置との間の相互作用を検証する本研究の分析枠組みを提示する。第 3 章から第 7 章は、校長、教員、保護者を対象として複数の地域及び学校で筆者が実施した質問紙調査の結果に加え、学校の成果に関しては TIMSS2011 のデータを用いた実証分析の結果を示している。まず第 3 章及び第 4 章では、学校評議員制度による保護者等の学校参加が学校経営に及ぼす影響は限定的であること、及び学校が保護者からの多様な教育要求に応答することは必ずしも子どもの学力達成に直結するものではないという分析を示している。続く第 5 章及び第 6 章では、保護者の多様な教育要求への応答という要因に、教員間の協働というもう一つの要因が加わることで子どもの学力達成が促進されている可能性が示される。そして第 7 章の分析では、教育委員会による適切な教員配置が学校内部における教員間の相互支援を促進するという知見を提示している。終章では、本研究でとりあげた学校の経営及び教育活動に対する統制（責任）の類型間の相互補完性について、得られた知見に基づいて総括を行い、政策的含意と残された研究課題を述べて本論文を締めくくっている。

本研究は、学校の教育活動の質及び成果に影響を与えうる要因のなかから、特に保護者等の教育要望に対する学校の応答性、教員間の協働、教育委員会による指導・助言及び予算措置・人事配置に注目して、それらの関係を実証的に検証した点で学術的貢献が認められる。また学校教育の質を向上させるためには、民主性（保護者等による参加）の強化だけでは不十分であり、教員間の協働を促進する必要があること、加えて人事配置をはじめとする教育委員会による教育資源配分の適切性が教員間の協働に影響を与えており、教育委員会の役割が重要であることを提示した点などは、学術的のみならず政策的示唆にも富む知見である。よって、本論文は、博士（教育学）の学位を授与するに相応しいものと判断された。